

地区委員報告

●戦略計画委員会 委員 中村会員



地区・戦略計画委員会は、2680 地区ビジョン及び 2023-2026 年の地区戦略計画を立案・作成すべく、昨年 7 月から毎月 1 回開催されました。以下作成された地区ビジョンをご紹介します、報告といたします。

地区ビジョン

私たちはロータリーの「中核的価値観」・「奉仕の実践」を尊重し、自らの人間力を高めるとともに、活気にあふれ、魅力あるクラブの実現を目指し、地域社会や世界に持続可能な良い変化を生むために行動します。

地区戦略計画（2023-2026 年）

1. より大きなインパクトをもたらす

- ロータリー財団補助金を活用し、地域社会や世界で良い変化を生み出すインパクトのある奉仕プロジェクトを実践する。
- ロータリーのブランドと公共イメージの向上に努める。

2. 参加者の基盤を広げる

- クラブの会員組織強化に努め、仲間を増やす。
- 多様な人々の参加を促し、DEI（多様性・公平さ・インクルージョン）を実現する。
- 青少年の活動を支援し、若いリーダーの育成に努める。

3. 参加者の積極的なかかわりを促す

- 全クラブが将来のビジョンや戦略計画を策定する。
- My Rotary の登録を推進し、積極的に活用する。
- 地区やクラブが実施する行事やセミナーに積極的に参加し、感動的な体験を積み重ね、ロータリーの理解を深める。

4. 適応力を高める

- オンライン技術の能力を高め、社会の変化に迅速に適応する。
- ハラスメントのない環境作りに努める。

数値目標

- 会員増強 各クラブ純増毎年 1 名以上
- My Rotary 登録率 75%以上
- ロータリー財団年次基金
毎年 1 名あたり 160 ドル
- ロータリー財団恒久基金
ベネファクターまたは遺贈友の会会員 毎年 10 名増
- ポリオプラス基金
毎年 1 名あたり 40 ドル

- 米山記念奨学会

毎年1名あたり17,000円

- クラブ管理運営委員会 委員

会員維持増強委員会 副委員長 本條会員



(1) 会員維持増強委員会について

地区の会員増強活動は、ガバナー方針で「純増何名」という年度目標があって、一年という限られた時間の中で結果を出すことが求められますので、どうしても目先の数の話になりがちです。けれど、数字が目的化することで「数合わせ」のような増員運動に陥って、結果、増強ならぬ「増弱」になっては元も子もありません。ですので、私は卓話やセミナー

ーでは極力数の話はしないようにしています。

物事には現象と本質があって、会員数の増減というのは単なる現象に過ぎません。そこを何とかしようと思えば、その本質を考える必要があります。

私は、会員増強の本質はクラブの求心力にあって、その核心はメンバーシップの確立であろうと考えます。メンバー一人一人にロータリアンたる誇りと自信が醸成されて、クラブに対する自負が確立すれば、結果は自ずと付いてくると思っています。

そんな課題認識から、今年4月の地区研修・協議会の会員増強部門では、ロータリーの徽章の着用を題材にして、メンバーシップの確立について考えるディスカッションを行いました。

昔のロータリアンは、メンバーシップの証しとして、誇りと自信を持って日常的にバッジを着用していました。が、今ではそんなメンバーは余り見かけなくなりました。それはどうしてなのか、メンバーにクラブの価値が浸透して、メンバーシップが確立するにはどうすれば良いか、意見交換を頂きました。

たまたま私のテーブルにお二方、日常的にバッジを着用しておられるシニアメンバーがおられて、お話をお聴きしました。やはり昔はバッジの常時着用が当たり前で、お互いにバッジを着用しているからこそ、知らない同士でも気持ちが通じるし、バッジの着用が自分を律することに繋がっている、とのことでした。

参加者の意見としては、クラブ内に誇りと自信を醸成するには、若手教育が大事だと。そのために炉辺会合やクラブ内の勉強会があって、先輩会員がクラブの歴史や価値を語り、指導に当たっている、というような声がありまして、私も大いに共感した所です。

詰まる所、会員増強とは地道な啓発活動以外にありません。当クラブでも来週は、新会員の歓迎を兼ねた家庭集会在り予定されていますので、ぜひロータリーの価値について語り合ってください、と思います。

(2) クラブ管理運営委員会について

近時、歴の浅い会長・幹事が増えつつある現状を踏まえて、今年度の委員会では、クラブ活性化の核となる会長・幹事のレベルアップをテーマに、そのサポートをどうするべきかを考えました。

会長にしても幹事にしても、その成否は就任の前年度、所謂エレクト年度の準備の出来にかかっています。

殊に幹事はクラブの事務総長として、就任までにその役割を自覚して、ロータリーの組織規定や活動の枠組みに習熟しておく必要があります。そこで高瀬ガバナー年度の 2021 年に、先ずは次年度の幹事予定者を対象に、次期幹事研修セミナーをスタートさせました。このセミナーは恒例となって継続されています。

一方で、次期会長向けの研修としては以前から会長エレクト研修セミナー (PETS) があります。が、PETS はエレクト年度も終盤の 3 月に予定されておりますので、そこから準備を始めても実際には色んなことが間に合いません。

PETS では遅すぎる—そんな課題認識から、今年は地区として初めて、会長ノミニーを対象とした研修セミナーを企画しました。テーマは、エレクト年度を如何に過ごすべきか、です。

セミナーでは、RLI スタイルのディスカッションと座学を組み合わせ、各クラブの会長ノミニーさんには、半日みっちり研修を受けて頂きました。それぞれにエレクト年度に向けてのヒントが得られたのではないかと思います。

(3) 総括と感謝

私は入会一年目で地区委員を受けて以来、13 年に亘って、会員増強やクラブ奉仕のほか、職業奉仕、社会奉仕、ロータリー財団、研修、RLI と、幅広く地区の仕事に携わってきました。その間、委員長を 5 回、副委員長を 7 回務めて、有り難いことに、これまでに委嘱された地区役職は累計で三十幾つになります。

思えば入会間もない私が、歴代ガバナーやベテラン委員を交えた地区委員会の議論にどうにか付いて行けたのは、当時クラブ内でお世話を頂いた様々な研修のお陰です。わざわざ時間を割いて丁寧にご指導賜った先輩方のご懇情に、改めて深謝申し上げる次第です。

地区の仕事は大変なことも多いですが、それを上回る恩恵もあります。その最たるものが、ロータリー世界を拓げる、得難いチャンスに恵まれることです。

担当業務を通じて、ロータリーについて多くを学びました。行くこともなかったはずの場所を訪れ、知り合うはずもなかった人たちと「心の友」になれました。外国を知って初めて自国の良さが分かるように、クラブの外で見聞を広めることは、自分とホームクラブを客観的に見つめることにも繋がります。

クラブの枠を超えた奉仕と親睦の場として、このような貴重な機会を授かったことを、有難く思っています。

●職業奉仕委員会 久保会員



職業奉仕委員会の基本方針

ロータリーの職業奉仕の理念や原点を繰り返し学ぶ。

- ① 委員個人の職業奉仕の理解度を上げ、判断力を磨く。
 - ② 職業奉仕の卓話が自信をもってできるようになる。
 - ③ 職業奉仕は、仕事の現場ではどのような考え方で、何を行うかを研究する。
- ④ 各クラブの職業奉仕を盛り上げるために、どのような方法があるかを研究する。
 - ⑤ 各クラブからの依頼に積極的に答える。

